

建築文化賞

高齢者・障害者等に配慮した建築物

地域に親しまれ愛される施設

三和保健福祉センター

建築主：市原市

設計：株式会社 榎本建築設計事務所

施工：株式会社 鈴木組

株式会社 本吉工務店

所在地：市原市海士有木225-4



エントランス外観

この施設は、地域福祉の充実を推進するための施設として、市内で3番目に今夏オープンした。「保健福祉センター」(・地域福祉センター・障害者福祉センター・老人福祉センター・児童館・ヘルスステーション)と「発達支援センター」(・ことばの教室・マザーズホーム・療育相談室)を併設、多くの機能が盛り込まれた複合施設である。

建物はRC造2階建て。2つの中庭を中心にして、それぞれの機能を持つ室を回廊型の廊下で繋ぎ、行き止まりのない分かり易い平面構成である。要所に巧みに設けられたデッキテラスにより、自然の光、風が十分に取り込まれ、心地よい室内環境が確保されている。同時にその活動は屋外にまで広がり、互いを感じあひながら、施設全体のつながりを生む仕掛けになり、明るく健康的な雰囲気をつくっている。

この施設計画に当たっては、既存施設における経験を生かしながら、企画段階から関係団体や地域住民に参画を求める

と共に、関係部署、委員会等の意見や助言を取り入れて計画されたという。その結果の配慮であろうか、2つのセンター間に「融合性」よりも「独立性」が重視されていることが少々気がかりだ、という意見もあった。

隣接地には、三和地区の行政の核となっている三和支所や体育館、三和コミュニティーセンターがあり、この施設が加わることで、より一層「地域で支えあう福祉」の充実が図られるであろう。すべての人が健康で生きいきと暮らせるまちづくり、幅広い地域福祉事業の推進など、新しい活動の拠点となるようにと期待したい。

(夏目 幸子)



ホールより中庭を望む



和室 (茶道など多様な使い方をする施設)